第3章　前期計画の評価・検証

1　安心のまちづくり

（1）交通

事業名	事業概要	事業実績	評価	課題
1 福祉移送サービス 新規：　　継続：　　拡充：○	買い物や通院などに、移動・移送の手段を確保することから、福祉移送サービスの利用対象者や利用用途の拡大を目指します。	ストレッチャー、車いす対応車両を２台増車し、希望の日時に対応できるようになりました。	B	福祉移送サービスの利用用途拡大については、生活に対応できるきめ細やかな移送サービスについて継続して検討する必要があります。
2 寄り道クラブ おでかけクラブ 新規：　　継続：　　拡充：○	高齢者等の小グループ単位での生きがい活動の移動支援をします。 投資型車両移送事業を展開します。	くるみ園入居者、金山、下金山地区等を中心に買い物支援を月１回実施しました。	B	より柔軟な移送事業を展開するために、今後取り組む必要があります。投資型車両移送事業については未実施です。

（2）健康・介護予防・福祉サービス

事業名	事業概要	事業実績	評価	課題
1 介護予防事業	生活圏域に対応した生きがいデイサービスを実施します。	東部、西部ごとに生きがいデイを実施することで、閉じこもりの防止、介護予防拠点の充実に取り組みました。	B	生きがいデイの活動内容、食費の自己負担額の減額について検討が必要です。
	認知症予防事業を実施します。	「いきいき脳の健康教室」、デイサービスでは「学習療法」に取り組んでいます。	B	読み書き計算と合わせて、運動の習慣化によって脳を活性化するための取り組みが必要です。
	運動機能向上事業（トレーニングマシン）	トレーニングマシンの導入について、専門職の配置が必要であり、コスト面でも課題が残り、未実施です。	C	近年の介護予防の概念がマシンの使用に特化せず、新たな検討を進める必要があります。

新規 継続 拡充 ○	口腔ケア教室 低栄養対策教室 生活習慣病対策事業	老人クラブや千里大学等で健康教室を実施しました。 生活習慣病に関係する健診において、町内の医療機関で個別健診を実施しています。	B	団体への所属やサービス利用につながっていない高齢者に対しての働きかけが必要です。
2 保健福祉センター整備 新規 継続 拡充 ○	総合相談窓口の明確化と保健・医療・福祉体制のワンストップ化	総合相談窓口が明確になり、一体的、包括的な相談支援が可能となりました。	B	福祉部門の連携は強化されたが、保健、医療部門との連携をさらに強化する必要があります。
3 福祉サービス利用対象者拡充 新規 継続 拡充 ○	高齢者への福祉サービスの提供と利用促進のための制度のあり方を検討します。	外出支援サービス利用対象を高齢者、障がい者等に拡大しました。	B	世帯同居の方の配食サービスや除雪サービス等のあり方について検討が必要です。
4 ユニット型特別養護老人ホームの建設 新規 継続 拡充 ○	個室を確保し、ユニットで構成する生活空間を設置します。また、低所得者の負担軽減対策を実施します。	金山地区にユニット型特別養護老人ホームふくしあを建設することで、福祉拠点の整備、充実に取り組みました。	B	新しい福祉の拠点が完成したことで、地域の安心感が増しています。今後は更に、地域に開かれた拠点としての役割が期待されています。

（3）生活環境

事業名	事業概要	事業実績	評価	課題
1 除雪サービスの充実 新規 継続 拡充 ○	除雪サービスの在り方や大雪時の除雪体制の対応について整備します。	高齢者事業団や企業と連携し除雪サービスを提供しています。	B	重たい雪の除雪、サービスの有料化、除雪の範囲等について継続して検討する必要があります。
2 ゴミ分別収集の推進 新規 継続 拡充 ○	ゴミの分別方法について町内会単位で学習会や助け合いの活動を推進します。	小地域ネットワークでゴミの分別についての学習会や助け合いの活動を実施しています。	C	ゴミの分別が複雑になり、戸惑う方は多く、定期的な活動が必要であります。

3 居住支援 新規 継続 拡充 　 ○	若い世代の単身者住宅や世帯向けの住宅について、民間主導による建設の促進。	民間主導による、住宅の建設が進められるよう助成を実施しました。	A	認知症高齢者に対応できる居住の支援が急務となっています。
	公営住宅への障がい者入居の受け入れを促進。	自分生活を実現するために、協議・連携し入居しました。		
	グループホーム整備に伴う財政支援。	知的障がい者グループホーム建設に伴い財政支援を実施しました。		

（4）安心

事業名	事業概要	事業実績	評価	課題
1 生活サポートセンターの設置 新規 継続 拡充 　 　 ○	住民の権利と利益を守るため、金銭管理や消費者被害、虐待、DV 等の被害から守り、また被害に合わないための権利擁護支援に取り組みます。	生活サポートセンターを設置したことで、権利擁護に関する総合相談窓口が明確になり、多様な相談が寄せられるようになりました。	A	増加が見込まれるニーズに対応し、職員の増員、体制の強化が必要です。
2 ＳＯＳダイヤルネットワークの構築 新規 継続 拡充 ○	ひとり暮らし高齢者の生活不安の解消に向け、緊急時の通報ネットワークを確立します。	高齢者の緊急連絡先の台帳を整備するにとどまり、通報ネットワークの確立には至っていません。	C	再度、取り組みが必要です。
3 防犯灯の設置 新規 継続 拡充 ○	子どもたちや女性が夜間も安全に通学や通勤ができるよう、街路灯、防犯灯の設置を検討します。	保健福祉センターみなくるの駐車場に防犯灯を設置しました。	B	町防犯灯管理所管との連携強化によりニーズに対応した設置が必要です。

2　支え合いのまちづくり

（1）文化・教育・交流

事業名	事業概要	事業実績	評価	課題
1 介護職員基礎研修等の通信教育導入 新規：　　継続：　　拡充：○	介護、福祉に携わる人材育成を図り、南富良野高校に介護職員基礎研修等の専門教育課程を導入することを検討します。	南富良野高校で、ホームヘルパー２級の養成講習を実施し、卒業時には資格を取得し、地元の介護施設へ就職しています。	B	南富良野高校は普通高校のため現行の２級ホームヘルパー講習がカリキュラム上限界があり、資格制度が改正された場合の対応は難しい状況にあります。
2 地域交流基盤形成 新規：○　　継続：　　拡充：	町内では勤務後の時間を過ごす場が少なく、若者の交流の多くが職場に限られています。そこで、若者の定住化促進と地域の絆づくりに取り組みます。	駅前の赤レンガの建物を活用できないか検討を進めたが、耐震の問題で利用することができませんでした。しかし、イベント等で、若者の交流の機会は増加しています。小中高生の居場所としてみなくるを開放しています。	B	冬期間は、ＪＲや町循環バスの待ち時間に暖をとりながら過ごせる場所が少なく、中高生や買い物荷物を持った高齢者等が不便を感じているため、フリー交流スペースは必要です。
3 体験の広場 新規：○　　継続：　　拡充：	学校と連携し、遊びや体験活動を通して、子どもたちの地域理解や人々の繋がりを深めて福祉の心を育みます。	夏休みや冬休みの時間を活用し、異世代間の交流事業、また、学校の福祉教育の時間を活用し、福祉の学習を行いました。	B	南富良野町の特性を生かした体験をさせてあげられるように取り組みます。
4 保健福祉等専門職職域連絡会の開催 新規：○　　継続：　　拡充：	保健・医療・福祉・救急等の地域福祉を担う関係職員の意見交換と交流の場を広げます。	保健福祉課、社協、大乗会、一味園、診療所、消防、薬局等の職員が集まり、学習会及び研修会を開催しました。	B	今後は、年４回程度、欲張りすぎない内容での継続が必要です。

（2）子育て

<table>
<tr><th colspan="3">事業名</th><th>事業概要</th><th>事業実績</th><th>評価</th><th>課題</th></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">1
子育て拠点の整備</td><td>子どもが安心して集まれる場所の確保</td><td>児童公園の遊具の補修及び保健福祉センターちびっこ広場とちびっこシアターを設置しました。</td><td>B</td><td>特に中高生の集まれることのできる場所や機能の整備が急務と考えられます。</td></tr>
<tr><td>保育所のあり方、子育て支援センターの体制強化</td><td>保育所職員の研修事業を 2 か年計画で実施しました。
また、食育等について、勉強会を実施しました。</td><td>B</td><td>子育て支援に対して全体的な議論が必要と考えられます。</td></tr>
<tr><td>新規</td><td>継続</td><td>拡充</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="4">2
子育て支援の充実</td><td>子育て費用の軽減</td><td>出産費用の一部助成は実施しましたが、医療費及び保育料の見直しは行いませんでした。</td><td>C</td><td>低所得者世帯については、軽減施策が必須なことから早期の実施が必要と考えられます。</td></tr>
<tr><td>子育て支援活動ネットワークの形成</td><td>「すきやき隊」事業を実施しましたが、継続的な事業には至っていません。</td><td>B</td><td>人材育成や発掘などの取り組みを進めていくことが重要です。</td></tr>
<tr><td>子育てバリアフリーマップの作成</td><td>放課後児童クラブの協力を得て、マップを作成しました。</td><td>A</td><td>作成したマップを広く住民に活用していく必要があります。</td></tr>
<tr><td>乳幼児健診における、時間帯や体制の見直し</td><td>健診全般見直しはできませんでした。</td><td>C</td><td>具体的に健診体制の検討が必要と考えられます。</td></tr>
<tr><td>新規</td><td>継続</td><td>拡充</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>○</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

（3）住民参加

<table>
<tr><th colspan="3">事業名</th><th>事業概要</th><th>事業実績</th><th>評価</th><th>課題</th></tr>
<tr><td colspan="3">1
地区座談会、懇談会の開催</td><td rowspan="4">住民が抱えている問題や課題の共有とその解決に向けた検討をするため、座談会、懇談会を開催します。</td><td rowspan="4">町内会、サークル等を中心に座談会を開催しました。</td><td rowspan="4">A</td><td rowspan="4">今後も継続し、地域の状況を共有し、町づくりを進めていくことが重要です。</td></tr>
<tr><td>新規</td><td>継続</td><td>拡充</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>

2 地域交流基盤形成		民生委員児童委員と福祉関係機関、団体との連携の強化	民生委員協議会において、研修や検討を実施し、小地域ネットワーク活動への理解を深めました。	B	小地域ネットワーク活動における民生委員の具体的な関わりを検討し実施することが重要です。
		住民相互の支え合い意識の向上	寄ってたかって幸せ講座を開催しました。また、小地域ネットワーク推進会議を開催しました。	B	住民主体のサロン活動がスタートしました。今後は定着へ向けたフォローアップ体制、事業の組み立てが必要です。
		地域の生活課題、福祉問題等の発見	座談会や研修会において顔なじみの関係が構築され、情報が行き来するようになりました。	B	定期的な地域会議を設け、情報の共有と対応ができるシステムを構築する必要があります。
新規	継続	拡充			
○					
3 ボランティアセンター事業の充実		ボランティア拠点の各地区への拡大とコーディネーターの育成	コーディネーターとしての職員採用や研修の機会を増やし育成に努めました。	B	各ボランティアが円滑に活動できるよう、キーパーソンの育成、支援に取り組む必要があります。
		活動世代の拡大	日頃の活動の情報交換や交流を深めるため、魅力あるボランティアセンターづくりに取り組みました。	B	ボランティア活動者のさらなる増加を目指していきます。特に中高生のボランティア育成に取り組みます。
		災害ボランティアネットワークの構築と養成講座の実施	赤十字奉仕団と連携し、災害時の炊き出し訓練や災害に関する養成講座を開催しました。	B	災害時の想定訓練等を行い、関係機関と連携し、ネットワークの構築に取り組みます。
		各種講座の開催と活動メニューの拡充	介護講座等の講座を開催し、新しい活動がスタートしたりグループが結成されています。	B	情報収集と提供に努め、住民ニーズにあった活動メニューの開発に取り組みます。
新規	継続	拡充			
		○			

3　輝くまちづくり

（1）行政・事業主

事業名	事業概要	事業実績	評価	課題
1 行政サービスの向上 新規：継続：拡充 ：：○	巡回窓口車「やまびこ号」の町内全域運行と停留場所の細分化等の実施。	住民票と印鑑証明を発行できるようにし、全地区を毎日運行するように改善しました。また、停留所も細かく設定しました。	A	やまびこ号が行政と住民のより一層のパイプ役となるよう、運行形態や停留所等の随時検討が必要です。
	公共施設のバリアフリー化と禁煙対策の検討。	保健福祉センターの全館禁煙実施しました。	B	保健福祉センター内の洋式トイレの増設や高齢化や障がい者の地域移行に伴う施設整備の検討が必要です。
2 福祉サービス事業の民営化 新規：継続：拡充 ○：：	民間ノウハウによるサービスの質の向上を図るため、福祉サービスの民営化や業務委託を進めます。	デイサービスセンター、高齢者生活福祉センターくるみ園、特別養護老人ホームー味園の民営化を行いました。	B	民営化後も継続してサービスの質の確保、施設の改修、修繕等に対する支援が必要です。
3 職員教育の充実 新規：継続：拡充 ：○：	行政や社協職員等の接遇、専門性の向上を目指し研修会を実施します。	町で一番入りづらい場所は「役場」であるとの住民の声を教訓に、接遇や職員の資質向上の研修を実施しました。	B	継続して、職員の意識改革に務めるよう、研修の機会を確保したり、住民の声を反映する仕組みづくりが必要です。

（2）情報・相談

事業名	事業概要	事業実績	評価	課題
1 保健福祉センターの整備 新規：継続：拡充 ○：：	分散化している相談体制やサービス体系等を保健福祉センターの整備により再編、構築し、包括的な支援を目指します。	総合相談窓口が明確になり、ワンストップ化が実現され、一体的、包括的な相談支援、サービス提供が可能となりました。	B	福祉部門の連携は強化されましたが、保健、医療部門との連携をさらに強化する必要があります。

2 地域包括支援センター機能の確立 新規：○ 継続： 拡充：	生活サポートセンターを設置し、権利擁護事業や生活支援に取り組み、実質的な地域包括支援センター機能を発揮します。	地域包括支援センターと生活サポートセンターが連携することで、福祉サービスと権利擁護事業、相談から包括ケアまでの一体的な対応が可能となりました。	B	今後は特に、新たなサービス（仕組み）や課題に応じたネットワークの構築に取り組む必要があります。
3 生活支援ネットワークの形成 新規： 継続：○ 拡充：	障がい児(者)の就学、就労、生活支援を進めるため、関係機関による生活支援のためのネットワークを形成します。	関係機関でネットワークを形成し、定期的に支援ネットワーク会議を開催しながら、適切な支援、暮らしやすい環境づくりのために取り組みました。	A	今後も継続して、障がいへの正しい理解のための住民研修会や支援ネットワーク会議を定期的に開催します。
4 広報活動の充実 新規： 継続： 拡充：○	わかりやすい広報紙や機関紙の発行とインターネットの活用に取り組みます。	町の広報誌に「みなくる発信」のページ、社協つうしんを隔月で発行、ボランティアつうしんを毎月発行しました。また、ホームページを開設しました。	B	広報活動と合わせて、出向いて説明をさせてもらうことが必要と考えられます。

（3）雇用・産業

事業名	事業概要	事業実績	評価	課題
1 雇用の創出・支援 新規：○ 継続： 拡充：	金山地区に、特別養護老人ホームを建設し、就労の場を創出し、地域の活性化を目指します。	特別養護老人ホームふくしあを建設し、併設するデイサービスセンターかなっぷを開設したことで、雇用の創出と、地域の活性化につながりました。	A	過疎化に伴い、将来的に人材の確保が難しくなることが予測されます。

<table>
<tr><td colspan="3">２
社会参加・就労支援</td><td rowspan="2">企業やアウトドアのNPO法人との連携により、地域に即した就労機会の創出を進めます。</td><td rowspan="2">高齢者や障がい者の就労確保のため、高齢者事業団や企業組合と連携し、仕事のあっせんを依頼しました。</td><td rowspan="2">Ｂ</td><td rowspan="2">障がい者の地域移行のため、富良野圏域に拡大する中で就労の機会を増加させる取り組みが必要です。</td></tr>
<tr><td>新規</td><td>継続</td><td>拡充</td></tr>
<tr><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">３
NPO 立ち上げの支援</td><td rowspan="3">福祉との連携による雇用機会の拡大を目指し、起業家の支援に取り組みます。</td><td rowspan="3">ＮＰＯを立ち上げたいとの相談に対応しています。</td><td rowspan="3">Ｂ</td><td rowspan="3">ニーズ調査や資金面で活用できる助成金の情報提供等に取り組む必要があります。</td></tr>
<tr><td>新規</td><td>継続</td><td>拡充</td></tr>
<tr><td></td><td>○</td><td></td></tr>
</table>